

テニスのトッププロ選手のゲーム分析研究

The game analysis of professional tennis players

1K04A212-9

前原 健太朗

指導教員

主査 加藤清忠先生

副査 坂井利郎先生

緒言

世界で人気の高いスポーツの1つがテニスである。そのなかで今最も注目されている選手がスイスのロジャー・フェデラー選手である。勝ち続けるフェデラーはどのように戦っているのか、どのようなプレーでどのように考え、試合を進めているのかを調べていく。

また、フェデラーに対抗するトッププロ選手についても調べる。その中で、フェデラーのグランドスラムを阻んでいる21歳のスペインのラファエル・ナダルと19歳にしてトップに挑み活躍しているアメリカのノバク・ジョコビッチを分析する。この両選手も世界の舞台で活躍し今年の4大大会で決勝まで勝ち進んでいる。この若さにして勝っている2人はどのようにプレーし、試合をしているのかを分析する。

私はここまで、大学のテニス界ではシングルス、ダブルス共に上位の戦績を残すことができた。しかし日本のトップ選手はおろか、世界の選手には足元にも及ぶことができなかった。私が勝つには、もしくはどうすれば勝てたのかをここで調べたいと思う。

方法

2007年にパリのローランギャロスで開催された全仏オープン、ニューヨークで開催された全米オープンともに放映されたWOWWOWを録画し、そのDVDの画面をモニターで各画面を分析した。

1、ストローク

まずストロークの打っているコースを1球1球調べ、相手のどこを狙って攻撃しているのか、どのように組み立てているのかを分析するために図1のようにテニスコートをABCDEFの6つのエリアに分けて調べていきたいと思う。

2、サービス

相手のどの場所にサーブを打っているのか、狙いはあるのか、ファーストサーブ、セカンドサーブのコースの打ち分けを1球1球調べた。コートについては相手選手のフォア、ボディ、バックの3箇所とする。

結果と考察

フェデラーは終始深いコースを中心に攻めた。その中でもナダル、ジョコビッチのバックハンドにより多くボールを集めた。トッププロ選手でもフォアハンド、バックハンドで優れている方には打たず、弱点がない

中で攻める場所を決めてプレーしているように思えた。試合前から作戦は考えていると思うが、試合中に自分の調子、相手の調子によってゲームの組み立てを考えている。サービスはフェデラーの武器の一つであり、常にサービスエースを狙いコースを散らしていた。

ナダルはフェデラーのバックにサーブを集め続けた。相手の弱点を徹底的に狙い、相手よりもミスが少なく無理をしていない。ナダルは、セットごとにゲーム展開を考えているように思えた。自分が取ったセットのイメージ、戦略を相手に崩されるまで変えないといったように思えた。

ジョコビッチは、自分のテニス、流れを作ってプレーをしていた。相手のテニスに合わせるのではなく、自分ができるプレーをやっていた。しかし、あと少しというところで、それまでできていたプレー、ショットができなくなってしまいフェデラーに追いつかれてしまったところが経験不足ということだったのではないだろうか。ジョコビッチは終始プレーを変えようとはしていなかった。

3選手共自分の試合の運び方というのを持っていた。自分にあった試合運びを持つべきである。

まとめ

全仏オープンと全米オープンの決勝戦2試合を分析してきたわけだが、選手たちは自信のあるショット、武器を持っていた。フェデラーはフォアハンドやサーブ、ナダルは足とフォアハンドのスピンの、ジョコビッチはフォアハンドでの攻撃、それぞれの武器を最大限いかして試合をしていた。逆に相手はその武器を打たせないようなボールの配球を工夫していた。自信のあるショットが打てなかったり、そのショットがうまく決められなかったりなど流れをつかむことができなかった状況では、ゲームを落とし、さらにはそのセットも奪われてしまっていた。相手の武器に早く気づき打たせないこと、セットが取れた場合はその流れを変えないこと、また、流れをつかめない場合には狙いを変えることを選手はやっていた。また、コートによって戦術を変えているようではなかった。その1球1球に魅了された。選手たちはこれからも私たちを驚かせるようなプレーで魅了させてくれるであろう。